

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799200072		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき中茶屋		
所在地	大阪府大阪市鶴見区中茶屋1-2-12 (1階)		
自己評価作成日	平成26年9月27日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年11月1日にオープンして、1年が経とうとしています。今後も地域に根ざしたホームの運営に取り組んでいきたいと思っています。季節に応じた行事や外出の機会を設け、ご入居様に季節感を感じて頂けるサービスの提供を心がけていきたいと思っています。
ご家族様の要望、意向を汲み取り、ケアの中に取り入れるよう心がけるとともに、ご入居者様と寄り添える時間を増やして、信頼関係これまで以上強めていきたいと思っています。職員全員でより良いホームでの生活をして頂けるように取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は各地で積極的にグループホーム等の介護事業所を展開している。事業所は昨年11月1日に3階建・3ユニットを開設した。1~2階で2ユニットを運営している。この1年間は職員及び利用者の確保で相当苦労されたが利用者は漸く2ユニットが満室となり、職員の確保はまだ十分ではないが管理者・職員皆が協力し合い、日々サービスの向上につとめている。町会に加入し地域の行事に参加したり、町会長の紹介で地域のボランティアを受け入れるようになった。事業所は利用者ごとに担当者を決め、家族には毎月の「便り」と一緒に一人ひとりの状況を記入した文書を送付し、家族との会話につなげている。法人理念と地域密着型サービスの意義を理解した事業所独自の理念を掲示し、申し送り時に毎日唱和し、職員は実践につなげると共に課題の改善を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示し、職員は申し送りの時に唱和し、日常業務に理念を実践できるようにしている。	法人理念と整合性があり、地域密着型サービスの意義を理解し、職員の行動規範にもなり、個別ケアを謳った分かり易い言葉の3項目の事業所独自の理念を掲げ、職員は日々申し送り時に唱和し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所を散歩し、ご近所の方と挨拶をしているし、地域の催し物に参加している。	町会に加入し、地域の情報を得ている。盆踊りに参加したり、秋祭りのだんじりが事業所前で見学出来たりしている。今後は地域防災訓練等に参加し、より進化を図るように検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は実施できていないが、今後地域に向けて、講習会等を開催していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事等、日常の取り組みを報告し運営に関する意見交換を行いサービスに取り入れている。	年6回開催すべく初年度から努力している。町会長・地域包括支援センター職員・家族の参加を得ているがメンバーの拡充も検討している。単なる報告事項だけでなく、参加者から意見を聞き、運営に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にこれといった取り組みは出来ていない。	区生活支援課とは頻繁に相談したり、運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加され、情報を得るよう努めている。区介護センターにある安心サポートや踊りボランティアとかかわりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないケアを実践している。会議、勉強会でケアをふりかえり、自覚していない身体拘束がないか話し合っている。	身体拘束のマニュアルを整備し、虐待防止と一緒に身体拘束排除の研修を実施し、職員の共有を図っている。事業所として原則身体拘束は行わない事を明示している。玄関は施錠しているが利用者の外出希望シグナルに出来るだけ対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に職員の言動を注意し、研修等で理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学習する機会を設け、理解を深め今後も必要に応じて活用の検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について時間をとってわかり易く説明し理解して頂く様、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で入居者の方に声かけをし、不安や不満がないかを聞く姿勢をもつよう心がけている。家族等が面会に来られた時は、近況報告し、要望等を聞くようにしている。	利用者ごとに担当者を決め、毎月の様子を家族に送付し、家族の来訪時には出来るだけ意見や要望を聞くように努めている。利用者自身からも会話を大切に、要望等を聞くようにしている。苦情処理簿を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を聞く機会を設けている。	事業所は月1回職員会議を開催し、出来るだけ意見を聞くように努めている。開設時から職員の確保で苦勞したようだが漸く落ち着いてきた状況で管理者は職員と一緒に日々サービスの向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修にてランクアップ制度や研修を行い、レベルアップに挑戦出来る仕組みを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会等しているが、法人外の研修の受講の機会を増やしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者との交流や、情報交換ができていない。今後積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と出来るだけコミュニケーションを取り、不安や不満を聞き、家族とも連絡をとって意見を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも情報収集する機会を、可能な限り取って家族様の意向や要望を聞き取り、信頼関係を向上できるように、勤めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ事前に見学していただき、納得されるよう説明し本人、家族より情報を集めサービス提供へつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族の喜怒哀楽を理解するよう努め、家族と共に利用者を支えていくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを中心に対応させて頂きながら、家族様の意向に沿えるように対応させて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から馴染まれていた物品等は可能な限り持参して頂いています。友人が訪問されたり、電話で話されたりしています。	利用者様と、利用者様のご家族が同じ職場であった事もあり、訪問時には、和やかな時間を過ごしている。馴染みの人への定期的な来訪を歓迎し、支援をしている。家族の協力で自宅での外泊や墓参り等、馴染みの場所への支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人を尊重しながらも、個々で孤立しないように職員が間に入りコミュニケーションを図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も意見や相談を受け入れていきたいと思う。入院等の時は、面会へ行き状態の把握や関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで生活歴・趣味など聞き取っている 又、日々の関わりの中で、利用者の想いを聞き出すようにしている 意思疎通が困難な利用者にはスキンシップを大切にしている。	利用時のアセスメントで過去の生活歴・趣味等を把握し、職員の共有を図っている。入所後も利用者ごとに担当を決め、要望・希望を聞くように努めている。家族からも繰り返し意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、日々の関わりの中で、家族様や本人の意見や情報を取り入れ、サービス内容に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子(表情や食欲や体調管理等)をしっかりと観察するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成にあたっては、本人の希望・職員の気付きをケアカンファレンスで話し合い、又家族からは面会の折に希望など確認し、必要ときはカンファレンスに参加していただき介護計画に反映させている。	3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、チームでカンファレンスと共に、介護計画書の変更を実施している。本人本位に個別ケアを大切に、医師や家族と相談し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録への記録やケアプラン会議にて情報の共有を行い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の記録は個人健康チェックに記載し記録するようにしている 1ヶ月ごとに評価し、3ヶ月に1度カンファレンスを開き介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、地域の情報が多くわかるようになってきたので、今後は地域との交流を深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の意向を確認しながら、医療面のサポートをさせて頂いています。入居前からのかかりつけ医に受診されることも支援させて頂いています。	かかりつけ医は利用者・家族の希望を優先している。協力医療機関の医師が月2回往診している。歯科医は毎週、眼科は月1回往診し、必要に応じて治療している。従来のかかりつけ医には家族が通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な健康管理と必要時に相談する事により、医療的な支援をさせて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は面会に行き、本人、家族と話し、退院後に生活について、病院関係者とも情報交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた段階で協力医療機関医師と相談、指示を受け、家族、職員間で困難になりそうな事を具体的に話し合いようになっている。	現状は利用者が重度化した場合は医療行為を伴わない範囲に限り、看取り対応ができることを家族に説明をし、話し合っている。開設1年で、1回だけ重度になった利用者があり、救急対応を経験している。今後は医療連携や書類の整備を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに従い、急変時、事故発生時には、速やかに関係各所と連絡を取り、適切に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施 近隣の方がこられた時や運営推進会議のときに協力を呼びかけている。	消防署立会いで年1回消防訓練を実施し、もう1回は事業所で消火避難誘導訓練を実施している。運営推進会議時に災害時訓練を通知し、協力を呼びかけている。	地震・水害・火災等の災害は何時おこるとも限らない。外部資料等(大阪府・日本認知症GH協会等)を参考にし、事業所独自の避難誘導マニュアルを作成し、実践的な訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にし、日々のケアにおいても利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を指示している 記録等は鍵のかかる棚に保管している。	接遇及び個人情報保護の研修を年間計画に組み込み実施し、職員の共有を図っている。利用者への言葉使いに特に配慮し、呼称に関する”ちゃん”や幼児言葉を禁止している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから利用者とコミュニケーションを図り、さりげなく希望を聞いたり、自己決定しやすいようわかりやすい言葉や写真や絵などを使ってできるだけ本人の自己決定を促すよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を重視し、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用や、本人の要望を確認しながら対応させて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の生活歴に合わせ、食卓のセッティング、調理、配膳、下膳、食器洗いまで生活の一部として参加している。食卓を職員と一緒に囲むことでお互い声を掛け合いやすくなったのしい雰囲気作りを行っている。	利用者の中に昔取った杵柄で包丁を見事に使ったり、味付けや盛り付け・片付け等を出来る利用者には、手伝ってもらっている。献立と食材は業者に委託し、職員は交代で調理している。食事風景は利用者の笑顔が溢れている。	食事は利用者にとって美味しいものを食べる事が大きな楽しみとなり、生きがいがいにつながっている。利用者の好みや苦手な物を把握したり、検食を取り入れるなど、食をテーマにした話し合いをされてはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量は記録用紙でチェックしている 一人ひとりの好みや状態に合わせた食事の提供 栄養バランスを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じて口腔ケアの支援をしている また往診歯科医より助言や指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者にはできるだけ、トイレでの排泄ができるように、排泄時間の確認をし、スムーズなトイレ誘導をこころがけている。	職員は排泄パターンを把握し、日中は出来るだけ自立でトイレで排泄が出来るようにさりげない誘導を大切にしている。水分補給やおやつ作り及び適度な運動を大切に、工夫して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの一日の生活の中で食事や水分量・排泄リズムなどを検討し、自然排便できるよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やペースに合わせた入浴ができるよう支援している。	週2回は入浴が出来るように支援しているが頻度や時間は希望に沿えるように柔軟に対応している。嫌がる利用者には時間を変えたり工夫していると共に嫌がる理由も十分に理解し、楽しい入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の一人ひとりに合った生活の過ごし方を支援し、自然な生活リズムを作り、個々のタイミングで休んでいただく寝付けなときは、温かい飲み物を提供しお話しするなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてはファイルに薬局からの薬の説明書を貼付し、変更があった場合には服薬等変更表に記録するようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や得意なことに合わせて、食事作り・洗濯・趣味に活動して頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の意思や希望を考慮して、個別に対応出来るよう努めています。今後は家族様やボランティアの協力を得た外出を検討している。	近隣にある安全な遊歩道を散歩コースとして、出来るだけ季節ごとの外出イベントや日常的な外出を増やすべく、職員皆で話し合いを行っている。	日課的に外気に触れる事及び職員・管理者が検討しているイベント外出を増やす事や利用者が希望する場所への外出等を話し合う外出委員会を立ち上げては如何でしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の能力、事情に応じて家族、友人との交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の温度の管理、音楽等その時々状況を見ながら対応したり、利用者と話しをしながら心地良い環境、空間作りを心がけています。	日当たりが良く過ごしやすい居間兼食堂となっており、季節感のある貼り絵が飾られたり、コスモスの花が活けられている。廊下・トイレ・浴室もゆったりとした広さがあると共に施設内敷地も今後色んな活用が可能である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、イス、ソファのレイアウト変更により、その時の状況に応じて対応しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談をして、馴染みのある家具や思い出の品物等常に話しをさせて頂きながら対応しています。	馴染みの家具や置物を持ち込み、思い思いの人形等が飾られ、利用者が居心地よく過ごせる居室となっている。職員は掃除や換気を大切に支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者合した福祉用具を使用する等、安全を優先しながら、自立した生活を送れるように支援しています。		